

こんにちはコミュニティ

Community



特集

コミュニティカレッジ 2020

—新たな時代のコミュニティ活動のあり方とやり方—

Vol.
117
march
2021

photo : 小宅古墳群の桜 (益子町)

■ 特集 ■

コミュニティカレッジ2020

新たな時代の
コミュニティ活動のあり方とやり方

AREA : 日光市久次良地区 -kujira-

空が近い

山が近い

人の笑顔も近い



特集 コミュニティカレッジ2020

～久次良町自治会（日光市）の事例を通して学ぶ～

新たな時代のコミュニティ活動のあり方とやり方

地域のコミュニティリーダーの養成を図ることを目的として開催している「コミュニティカレッジ（委託先：一般社団法人とちぎ市民協働研究会（以下、研究会））ですが、今年度は、「久次良町自治会（日光市）の事例を通して学ぶ」新たな時代のコミュニティ活動のあり方とやり方」をテーマに、11月6日（金）から1月15日（金）まで全4回の日程で実施しました。

今年度のカレッジは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第2～4回をウェブ会議システム「Zoom」を利用してオンラインで実施し、第5回の「ふりかえりと交流会」は緊急事態宣言に伴い、中止となりました。

研究会の廣瀬代表理事は、「オンライン講座は参加入り自由です。画面に拘束されることなく、講座を楽しんで下さい。」と冒頭で挨拶しました。毎回顔を合わせて、受講者同士に繋がりを持ってもらうコミュニティカレッジですが、今年度は、パソコンの画面越しで自己紹介を

したり、グループワークをしたりするなど、今までと違う形態で始まりました。

**第1回カレッジ ◆ 11月6日（金）
プレセミナー
「Zoomにチャレンジ」**

第2回から使用するZoomの使い方が分からない方を対象に、システムの操作方法を学びました。

新しい生活様式のもとで、当たり前のように使われ始めているオンラインによるウェブ会議システム。今更聞けなかったという質問にも、研究会の土崎専務理事が丁寧に一つひとつ答えました。

オンライン会議では、雑音が入ると、話をする人は雑音になり、話しくくなります。まずは、発言する時以外はマイクをミュート（消音）にするなど、システムの基本の動作を教えてくださいました。

セミナーの最後の方には、慣れてきた

方から、「会議を主催するホスト（発言元）になるには？」という質問に土崎氏が答える展開となりました。

**第2回カレッジ ◆ 11月13日（金）
「新しい生活様式と地域づくり」**

第2回カレッジは、研究会の土崎氏が「オンライン会議の潮流」、桑島理事が「オンラインによる学び方」をテーマに講義をしました。

土崎氏の講義は、オンライン会議でできることの体験です。一方的に講師の話聞く印象を与えるオンライン講義ですが、まずは、ブレイクアウトセッション^{※1}機能を使って、3～4人のグループに分かれ、自己紹介と、オンラインの良い点・弱い点について意見交換をし、グループごとに発表をしました。

○ **オンラインの良い点** ○
・ 遠隔地の人も顔をみて会話ができる

※1 少人数に分けて話し合うこと。大人数でオンライン会議を行っている際に、少人数のグループに分かれて話し合うことができる。

・会場まで行かなくて良い

・コロナ禍でも会える

・移動がない

・距離を選ばない

○ **オンラインの弱い点**

・話が一方通行になりがちである

・環境（WiFi）に依存しやすい

・初対面だとコミュニケーションが難しい

・職場の一角だと、話がしづらい。

《共通した意見》

・直接会うこと（対面）は、その場の空気が読めてコミュニケーションが取れ、話が進めやすい。

オンラインは、対面の代わりになり

ません。新しい道具を手に入れたと考
え、対面式の会議と同じ結果や質を求
めず、雰囲気を読みづらいオンライン
会議は、準備はより入念に、進行はつ
きりとするのが大切です。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

桑島氏の講義は、定着しつつあるオン

ラインは地域づくりに生かせるのか、オ

ンラインを活用した全国の地域づくり活
動の事例をたくさん挙げて、自分たちの
活動にも生かせるのか検討しました。

○ **オンラインツールを活用した事例**

・ **オンライン体験会**くオンライン講座
を浸透させるために、初級編・技術編
講座で受講者の心構えやスキルアップ
を図る

・ **オンラインで街あるき**くグループス
トリートビューで歴史探訪も取り入れ
た街あるきを楽しみ、グループに分か
れて、意見交換

・ **オンライン見学会**く遠くへ行けない
図書館、新館や改築の図書館、小さな



第2回カレッジのオンライン研修会場。会場
設営や準備に時間や経費が大きかからな
いのは、オンラインの良い点ですね♪

図書館など全国の図書館をオンライン
で見学

・ **オンラインによる「地域安全マップ」**
づくりくオンラインサービス「mir
o」を使用して、パソコンにホワイト
ボードを表示させ、複数人で写真や付
箋を貼ってマップづくり

・ **オンライン公民館**く家でできるダン
スの紹介や子どものおもちゃ作り講座
など多様な番組が展開され、好きな時
間に参加できる ほか

オンラインの良い点と弱い点を理解し
たうえで、デジタルデバイスへの対処、
一方的になりがちな講義に読む・聴く・
調べる等の活動を取り入れ双方向性を持
たせること、ブレンデッド・ラーニング^{※4}

（対面学習とセット）で人間関係を構築
すること、ノンバーバルコミュニケーション^{※5}
の必要性などオンラインの課題を考
慮しながら、自分たちの活動にオンライ
ンを付加することで、どんな可能性があ
るか、活動の仲間と一緒にアイデアを出
し合ってみましょう。

※2 道路沿いの風景を360度写真で見渡せるグーグル社の地図サービス
※3 情報格差：ITを利用できる者とできない者との間にもたらされる格差のこと。
※4 ブレンド型学習。研修の方法を講義だけでなく、複数の手法を混ぜて行う学習。
※5 言葉によらない非言語コミュニケーションのこと。ジェスチャーや態度、表情など言語以外の要素によるメッセージのやりとり。



第3回カレッジ ◆ 12月4日(金)
「久次良町自治会を訪ねて」

第3回カレッジは、久次良公民館から久次良町自治会の活動の内容を役員3名の方にインタビューする様子をオンラインで中継しました。

インタビューは研究会の廣瀬氏。活動内容を鋭い質問で深く掘り下げて行きます。

(インタビューの内容は次頁で紹介し
ます。)



日光中学校
文



久次良神社

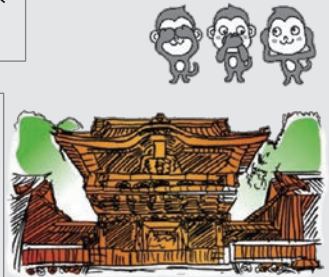
久次良公民館

延喜4(904)年久次良大明神として創立され、一村の鎮守神として創立されたが、明治元(1868)年久次良神社と改められました。



日本山妙法寺

日蓮宗の宗派の中の一つで、団扇太鼓を片手に檀家を持たずに、日蓮宗の布教を専門に法華經のPRを専門に行いました。



日光東照宮は、徳川家康が祀られた神社で、現在の社殿群は、そのほとんどが寛永13(1636)年三代将軍家光による「寛永の大造替」で建て替えられたもの。その豪華絢爛な美しさは圧巻です。

至
日光東照宮



日光市社会福祉協議会
日光支所(センター内)

日光福祉保健センター



国道120号(日本ロマンチック街道)

大日橋
大日堂跡

2000年に開通した新しい橋。景色抜群。大谷川のせせらぎと共に川沿いの桜や新緑を楽しむことができます。大日堂は明治35年の大洪水で流失したが、かつては明治天皇も立ち寄られたほどの景観を誇る美しい庭園。

だいやがわ
大谷川

日光市久次良町



【概要】

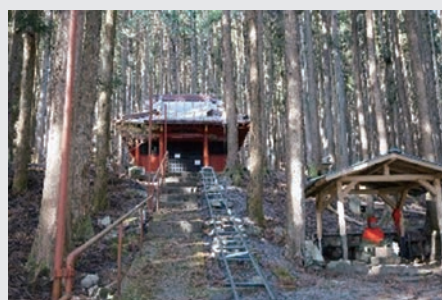
久次良は日光市の中央南部の地名です。花石町と裏見滝への玄関口で知られる清滝安良沢町に隣接します。地名は、奈良時代の族「久次良氏」に由来し、「久治良」「久自良」「久次郎」という表記も存在しました。

日光開山の祖として知られる勝道上人の子孫が、久次良町と花石町を社家町として住み始めたとされています。

【自然環境】

大谷川を南端とし、日光連山と鳴虫山に挟まれた台地で、日光地区では比較的温暖であり、学校や住宅街や宿泊施設が点在しています。

北側は山林に密接した土地であり、夜間にはシカなどの野生動物が頻繁に山沿いの住宅街にも現れます。



久次良薬師堂



くじら食堂

美味しいパスタやオムライスなどが評判の隠れ家的なカフェ。

市外からもたくさんのお客さんが訪れます。



日光明峰高校



久次良町駐在所

文

明応5(1490)年或いはそれ以前の創建の由緒ある堂宇で、薬師如来と十二神将を祀り、現世利益、応病与薬の守り仏。

薬師堂の例祭(5月上旬)前日の宵祭りに、久次良町の老若男女がお堂の中で筆で「め」を三つ書いて壁に貼っていき、1年間の目の息災を願う年間行事も行われています。

久次良町には、小学校、中学校、高等学校が各1校ずつあり、それぞれの学校と自治会は関わりがあり、連携しています。

(コロナ禍のため今までの活動とは異なりますが、)小学校では週に1回の消毒ボランティア、中学校では非常食を食べて避難の事を考える事業(以前は体育館での避難所体験)、高校では自分の地域を知る学習を進めています。



安良沢小学校

「しばらくは 瀧にこもるや 夏の初」
小学校の校門付近に松尾芭蕉の石碑(小杉放庵書)
昭和31年 安良沢小創立記念に建立。

文



(左から)
宮地ゆみ副会長 薄井和彦会長 小松三夫副会長

第3回カレッジ

廣瀬：久次良町自治会の規模は？どんな町？

薄井：347戸、人口861人、高齢化率は43%。

町内には、小学校、中学校、高校が各一校ずつあり、春の久次良薬師堂例祭、秋の久次良神社の例祭があり、お祭りを大切にしています。世代間の交流事業が盛んで、皆の顔が見られる町です。

廣瀬：コロナによりコミュニケーションの量が減る中、自治会でしたことは？

小松：毎月開催していた定例委員会が開催できなくなったが、毎月その日に公民館に18:30から19:00までの指定した時間に担当の方に来てもらい、委員会の資料や広報誌を手渡しし、伝えたいことや地域の話しながらコミュニケーションを取りました。

廣瀬：合理と便利を求めて広報誌を新聞の折り込みと一緒に配布するところもある中、少し面倒に見えるかもしれない手渡しという、その不便さがコミュニケーションを生んでいます。直接元気な顔を見ることが心の安定につながり、その心の豊かさが“この町に住んで良かった”と感じる住みやすい町の要因になっています。



研究会
廣瀬 隆人代表理事

廣瀬：久次良町自治会の特徴的な取組は？

宮地：大きな取組は三つあります。

「ちょいボラ」「ホットくじら隊」「おしゃべり昼食会」です。
(詳細は下記に記載しています。)

廣瀬：一人暮らしの高齢者の事を優先的に考えて活動するということが、これからの自治会活動の常識になるかも知れません。

この自治会の肝になる部分は、役員の方がすぐに集まって話し合い、手早く決断する仕組みです。それが住民に手の届くサービスにつながっているのですね。

久次良町自治会の特徴的な事業、取組は？

●ちょっと親切運動

「ちょいボラ」

電球交換、買い物サービス、新聞・段ボール等の資源物回収のお手伝い、話し相手になるおしゃべり訪問など1回50円で引き受けます。

すぐに依頼を引き受けるのではなく、依頼内容を受けて良いか役員で話し合いをし、受けるときは2人で対応します。

「何か困ったことがあったら連絡を下さい」という構えではなく、

「運べない大きな荷物はない？」「捨てる物はない？」という

アプローチで、ニーズを拾う声掛けをしています。



インタビューの様子をオンラインで視聴している参加者からの様々な質問に、役員の方が一つひとつ丁寧に答えました。

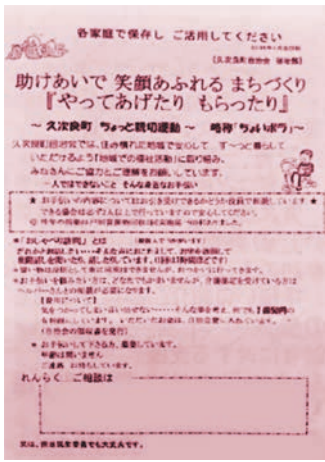
●ホットくじら隊

38ある隣組に1名ずつ見守りをする隊員がいます。訪問をするわけではなく、“新聞受けに新聞が溜まっている”“夜になっても電気がつかない”など気づいたことがあったら、自治会役員または民生委員に連絡をします。

守秘義務厳守の身近なお隣さんが優しく見守ってくれる体制です。

ホットくじら隊は、誰が隊員なのか分からない覆面隊員。

見られているという意識をさせない細かい配慮です。



高齢者向けのお知らせのチラシはいつもピンク色の紙で印刷し配布しています。電話をした時に繋がらないことがないように、チラシには複数の連絡先が記載してあります。

高齢化率の高い久次良町自治会では、高齢者に優しい様々な工夫がされています。

「日光市久次良町自治会の秘密くじと心のハーモニー」をテーマに第3回カレッジのふりかえりと廣瀬氏による講義を行いました。

第4回カレッジも日光市久次良公民館からオンラインで実施しました。

第4回カレッジ ◆1月15日(金)
「久次良町自治会から私たちが学ぶこと」



公民館入り口にはスロープ、手すり、腰掛け椅子が設置されています。長い廊下にも手すりがあります。



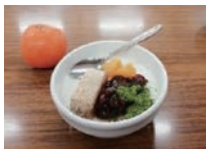
コロナ対策の手指消毒剤を入りに設置



日光市久次良公民館から県内外の受講者へ活動の様子を発信できるのもオンライン研修の良さですね。♪



公民館には、高齢者が参加しやすく、負担のないように、たくさんの椅子が用意されています。公民館全体が優しさに溢れています。



第3回カレッジ修了後に久次良町自治会の方々から昼食をご馳走になりました。メニューはカレーライス、サラダ、デザート付き。広い部屋でソーシャルディスタンスも配慮されていました。おもてなしの心が溢れています。美味しくいただきました。ごちそうさまでした。

●おしゃべり昼食会

1回100円で参加できます。概ね

年3回実施しています。

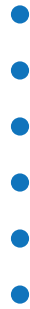
昼食を一緒に食べるだけでなく、社会福祉協議会の職員、駐在所の警察官、保健師などにミニレクチャーをお願いし、普及啓発・歌声活動・ゲーム・健康体操などを実施しています。

実は高齢住民がお世話になる機関や施設の関係職員を招いて社会教育を充実させながら、「個人の名前と顔」でつながる地域福祉、地域医療の環境醸成をすすめています。

コロナ禍の中、特別定額給付金の申請のため、公民館の「ピア機を貸し出すなど細かいニーズ・課題に即座に対応するその「スピード性」は、久次良町自治会の大きな特徴の一つです。

●久次良町自治会から学ぶこと

- ・重要なことや大切なお知らせは、繰り返し何度も回覧する。
- ・ニーズを掘り起こす、ニーズに気づくために直接対面による活動をこまめに展開する。
- ・一人ひとりの事情や困りごとに応える。
- ・関係者でいつも話し合い、すぐに対応する。 等



暮らしが「豊かになる」とはどういうことでしょうか。若者と高齢者では、「豊かさ」の質が違つように感じます。

人と話をする機会が増えて、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりして、人と一緒にいる時間が増えるというように人とのつながりに「心の豊かさ」を感じるのが、久次良町自治会の活動です。一番困っている人に合わせていくという優しさに溢れているのです。

人とのつながりをどうつくるのか。

人とのつながりをつくれれば、地域での困りごとを地域の人達で解決できるようになります。

(抜粋)



研修終了後にオンラインによる記念撮影

私たちもコミュニティづくりに協力しています

『できる親切はみんなでしょう それが社会の習慣となるように』

「小さな親切」運動栃木県本部

代表：黒本 淳之介
 事務局：栃木銀行 経営企画部広報文化室
 住所：宇都宮市西2丁目1番18号
 TEL：028-633-1241 (代)





連載 いきいきコミュニティライフ！③

文 / 安藤 正知

「心温まる触れ合い」

家で過ごすことが多くなったので、読書の機会が増えました。ここ半年のマイベスト3は・・・コラムとは無関係ですね、脱線してすみません。自分時間を楽しみつつ、自治会活動もできる範囲で取り組んでいます。そんな中「うれしいな」と感じるが続いたので、まずはそのご紹介をします。

その1 年末募金の時 夜分集金にお邪魔際に「会計担当は別の方なので案内しますよ」と寒い中一緒に歩いてくれた班長さんがいたり、「寒かったでしょ、お茶飲んで暖まって」とお声掛けしてくれたご夫婦がいたり。

その2 新しいゴミステーションが決まった時 草刈りを呼びかけて集まった方々と和気あいあい作業をしたり、黄色のネットかけに四苦八苦していたら「手伝いますよ」と隣家から出てきてくれたり。

どれもこれもちょっとしたことですが、心がとても温かくなりました。

考えてみれば「コミュニティ」とは不思議な言葉です。辞書でひくと「共同体意識」とか「共同生活」といった

言葉が説明に使われますが、では自治会という枠組みで捉えるとどうでしょう。さまざまな考えをもつ人たちが、同じエリアに住んでいるという理由で帰属する地縁組織では、一体感のある目標を掲げることが難しく、それ故に課題が複雑に絡み合って現れます。そして、その糸をほぐして解決を見出すのは容易ではありません。だからこそ前述のような経験をする、「自治会、なかなかいいじゃない」と思えてきます。もちろん逆の体験も多々ありますが。日頃顔は見えるけど深く理解するお付き合いがない方々でも、何か困ったことがあればお手伝いしてくれる、そんな関係を身近に感じると安心します。活動自粛とはいえ、日頃のちょっとした触れ合いが潤滑油のように働き、生活に安らぎを与えてくれます。この安らぎを大切に、そしてできれば一つでも増やしていきたいものです。

最後におまけ、冒頭のベスト3は、「おもかげ」「流浪の月」「蜜蜂と遠雷」です。

安藤正知(あんどう まさとむ)

認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長

秋田市出身。化学品会社に16年勤務後退職し、2003年より宇都宮市民活動サポートセンター勤務、2005年NPO法人宇都宮まちづくり市民工房設立に関わり、2019年理事長就任、市民主体のまちづくりを目指して調査研究、まちづくりの実践を行っている。2012年1月宇都宮市が開設した宇都宮市まちづくりセンターの指定管理者としてその管理運営に携わる。



つっちー おすすめ!



◆ 書籍紹介 ◆

『あそびの生まれる場所…「お客様時代」の公共マネジメント』

西川正著 ころから発行

「先生、これが終わったら遊んでもいい？」という幼稚園児のつぶやき
—— 以前、著者の講演を聞いた際、このつぶやきを紹介され、何とも言えない「収まりの悪さ」を感じたことを今でもよく覚えています。子どもの何気ない一言だと捉えればそれまでですが、遊びというものに内在する自由さが失われていることを象徴しているのかもしれない。

著者は父親、学童保育運営団体の役員、そして市民活動・まちづくり支援の活動者という三つの顔を持ちつつ、埼玉県内の様々な地域で生まれた課題に対して、広く多くの人と取り組む社会運動や社会事業を立案し、実践しています。趣味は「カブリモノ」の作製とのことで、著者のファンが栃木県内にもいるとかいけないとか。

本書の冒頭、著者の子どもが通う小学校の教頭先生の「何かあったら困るので…」という言葉が紹介されています。著者が考える「何か」は本書を読んで確認するとして、皆さんのなかにはそのように言われたことがある人もいれば、言ったことがある人ものではないかと思えます。「何か」に対して過剰に反応するあまり、一見、無駄に見えるが、それがなければ全体をうまく動かすことができない〈あそび〉が社会全体から失われつつあること著者は指摘しています。

ここ数年、付度という言葉が多用されたり、強い自己による自助を要請されたり、暮らしか社会における息苦しさの度合いが日に日に高まっているように感じています。「誰かを排除したり、安易に権力に頼ったりすることなく、自由を感じながら生きていける、そうした暮らしとは、社会とは、どうすればつくれるだろうか。」という著者の言葉を最後に紹介しつつ、紹介者（土崎）自身もコミュニティ活動をおしてこの問いを探究していきたいと思えます。

土崎 雄祐（つちざき ゆうすけ）秋田県生まれ。これまでに NPO 法人職員や大学教員として学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体職員研修の企画立案支援などに従事。認定 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房常務理事、（一社）とちぎ市民協働研究会専務理事など。

私たちもコミュニティづくりに協力しています

県民・行政・企業の協働と社会貢献活動のお手伝いをします！



NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ
TOCHIGI COLLABORATION DESIGN LEAGUE

みんなと育むまちづくりシンクタンク

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」管理運営団体
☎ 070-4288-7400 HP: <https://www.tochigi-tcdl.net/>

栃木県コミュニティ協会地域研修会 (生活学校フォーラム)

9月16日(水)に、とちぎボランティアANPOセンターぼ・ぼ・らにおいて栃木県コミュニティ協会地域研修会(生活学校フォーラム)を開催しました。

この研修会は、栃木県生活学校連絡協議会と共催で行われ、「キャッシュレス時代を考える〜カード等の有効利用と新しいライフスタイル〜」をテーマに講演を行いました。

消費環境の中で、決済手段の多様化は非常に早いスピードで進んでいますが、日本のキャッシュレス比率は約20%(2020年1月時点)と、国際的にかなり遅れている状態にあり、国は2025年までにキャッシュレス比率を40%に高める目標を掲げています。

日本におけるキャッシュレス化に関する正しい知識を身につけ、キャッシュレス化がもたらす新しいライフスタイルについて、研修を通して理解を深めることができました。



「キャッシュレス時代を考える

～カード等の有効利用と新しいライフスタイル～」

講師:ファイナンシャルプランナー 橋本 秀則 氏

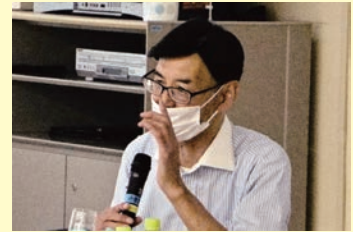
政府がキャッシュレス化を進める理由は、キャッシュレス化が進んだ外国からの観光客が買い物しやすい状況を作り、国内消費を喚起するインバウンド対応が大きな目的の一つです。

キャッシュレス化のメリットは、大金を持ち歩かなくても買い物ができるので盗難・紛失のリスクが削減できます。また、家計簿などを付けなくてもスマホなどで消費履歴の管理が簡単にできたり、カード等を使用することでポイント還元のメリットを享受できたりします。店舗側は、レジ締めに係る作業時間が短縮でき、人件費の削減になるなどのメリットがあります。

現金決済インフラを維持するために、年間約1.6兆円を超える直接コストが発生しています。キャッシュレス社会は無人化を促進し、昔いたエレベーターガールや電話交換手の仕事が現在無くなってしまったように、人のサポートを必要としないサービスが誕生し、消えてゆく職種が出てくるかもしれません。

キャッシュレス化のデメリットは、セキュリティ面でのリスクや店舗が提示する決済に対応していないことがあるということです。また、スマートフォンは停電時など充電が十分でないと使えません。便利なものも使えなければただの物となってしまいます。災害時や非常時に対応できない場合があるということもデメリットです。(抜粋)

クレジットカードは店舗に行かなくてもインターネットでショッピングができますが、お財布の中にある現金を超えた金額の買い物もでき、使いすぎの心配もあります。キャッシュレスのメリット・デメリットを理解して、賢く利用したいものですね。



【表紙の写真】 小宅古墳群の桜

益子町小宅の亀岡八幡宮の西隣にある小宅古墳群は、35基の古墳からなり、そのうち17基が県指定の文化財として指定されています。

地元の有志により、除草や桜の植栽、菜の花の種まきなど、多くの時間と労力をかけて、古墳群の周りを整備してきました。今では春になると、菜の花とたくさんの種類の約200本の桜が一面に咲き誇り、たくさんの観光客で賑わいます。





世代間交流



▼ 講師・助言者派遣 ▼

当協会では、会員及び市町等が主催するコミュニティに関する勉強会又は講演会に対して講師・助言者等を派遣することにより、コミュニティの活性化を図っております。講師派遣を希望する団体は、申請書を協会に提出して下さい。

(詳細については協会までご連絡ください。)

▼ 令和3年度 総会・研修会 ▼

日 時：令和3（2021）年5月24日（月）

13：00～15：30

会 場：栃木県総合文化センター 特別会議室

講 師：萩原 なつ子 氏

(立教大学社会学部/大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授)

演 題：「男女協働で“きらり”と光るまちづくり」

■ 編集後記 ■

新型コロナの感染拡大により社会経済活動のあり方は大きな転換を迫られている。外出を控え、人との接触を減らし、社会的距離を保ちながらコミュニティ活動はできるのか？

この課題解決のヒントとなるのが今年度のコミュニティカレッジでも行われたオンラインの活用である。オンラインがすべてを解決するわけではないが、場所を問わずに時間を共有できるのは大きなメリットである。

オンラインを活用しつつ、キモとなる部分は対面で行う。その最適な組合せなど、コロナを通じて得た知見を活用して新しい活動の可能性を探る。そう、人間万事塞翁が馬、禍福はあざなえる縄の如し。そんな気持ちでウィズコロナの時代を切り拓いていきたいものである。(㊞)

CONTENTS

- 02 コミュニティカレッジ 2020
- 11 いきいきコミュニティライフ！
- 12 書籍紹介
- 13 地域研修会(生活学校フォーラム)
- 14 お知らせ



発行：栃木県コミュニティ協会

〒320-8501

栃木県宇都宮市塙田 1-1-20

栃木県県民生活部県民文化課内

TEL 028-623-2110/FAX 028-623-2121